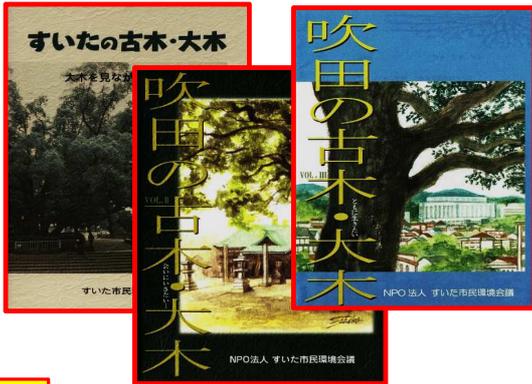


大木調査
(集約結果)

VOL I
↓
VOL III
表紙→



①植物の楽しみ方

- 1) 名前を覚える
花・葉・実・幹
- 2) いろんな場所
風景・写真・絵
- 3) 植生全体・生態系
調査・里山管理
- 4) 樹の大きさ
幹周り・高さ

②日本の巨樹

順位	名 稱	幹周(m)	樹種	所在地	保護指定
1	熊生の大クス	24.22m	クスノキ	鹿児島県鹿児島市	国天(特別)
2	四原修徳神社の大クス	23.90m	クスノキ	静岡県駿海市	国天
3	本庄の大クス	21.00m	クスノキ	福岡県筑前市	国天
3	川古の大クス	21.00m	クスノキ	佐賀県武雄市	国天
3	森十哲のエドヒガン	21.00m	エドヒガン	鹿児島県大口市	保護林
6	衣掛の森	20.00m	クスノキ	福岡県宇美市	国天
6	武雄の大クス	20.00m	クスノキ	佐賀県武雄市	市天
8	作原八幡宮の大クス	18.80m	クスノキ	大分県大分市	国天
9	藤家の森	18.00m	クスノキ	福岡県朝倉市	国天
10	お赤坂の大クス	17.10m	クスノキ	鹿児島県志布志市	国天
10	大谷のクス	17.10m	クスノキ	鹿児島県姪川町	国天
12	榎文杉	16.10m	スギ	鹿児島県上屋久町	国天(特別)
13	老イチョウ	16.00m	イチョウ	青森県百石町	町天
13	川辺の大クス	16.00m	クスノキ	鹿児島県川辺町	県天
15	三川の御座スギ	15.95m	スギ	新潟県三川町	国天

吹田市内での
大木調査は

- I 1997年
- II 2007年
- III 2017年

と、3回実施した。

2017年調査後、
2018年台風21号
による倒木が多
数発生し、集約が
遅れていたが、

2019年4月
(冊子完成)

2019年5月
(マップ完成)

で完了しました。

大木にはまり20
年間、大木からい
ろいろ教えてもら
い、育てられました。

大木の楽しさを知
ることができた最
高の場所が、「関
西大学」
でした。

今日そこを、皆
さんに紹介できれ
ば、と思っています。

I 関西大学大木マップ

(吹田の古木・大木VOL IIIより)



Ⅱ 気になる大木・関西大学



① 11. 関西大学の大大木

関西大学が吹田市千里山に学舎を新設したのは1922年（大正11年）だった。当初からキャンパス内にクスノキを植栽したようで、環境省が巨樹とする幹周り300cm以上の木が市内で最も多い地域となっている。今回の調査で大木は2007年調査の87本の内75本が健在であることを確認した。そしてこの10年であらたに大木となったものが32本あり、合計107本となった。

大学構内ではエスカレーター設置や学舎の増改築工事などが頻繁におこなわれたことで、この10年間に12本もの大木が伐採されてしまったが、巨樹レベルの大木は移植するなど残す努力がされてきた。

大木691

関大で、最も大事にされている木

大木691と、下記③ある枯れた大木690は、ほぼ同じ環境に植えられています。しかし、691の地下(タイル下)には導水パイプが敷かれており、水不足はない筈の木です。



② 12. 関西大学 3本の大木

吹田市を代表する木として簡文館前広場9本立ちのクスノキ(691)、正門東側のクスノキ(662)、以文館西側のイチョウ(695)について、1997年、2007年、2017年の幹周りデータを並べてみると、いずれも20年間で約12%幹周りが増加し、順調に生育している。

丈夫で長生きと思われているクスノキも、周囲が舗装されることなどで水分が不足すると枯れるという弱点がある。9本立ちのクスノキは関大大木のシンボルとして、いつまでも生き残ってほしいと思う。

*簡文館前広場9本立ちクスノキの1997年幹周り408cmは、単純幹周り計1223cmより断面積法幹周りに概算した。

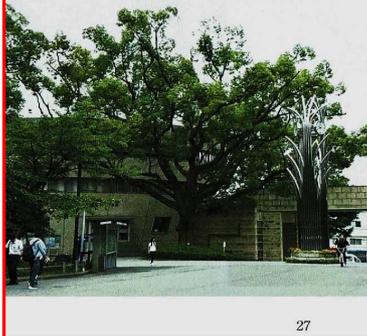
関西大学 3本の大木 幹周り変化 (cm)



1997年 2007年 2017年

上から
簡文館前広場 クスノキ*
正門東側 クスノキ
以文館西側 イチョウ

正門東側 クスノキ



③

13. 関西大学 簡文館の養生中のクスノキ

先に台風による倒木など、大木が生き続ける厳しさを紹介したが、吹田市保護樹木No.2に指定されている関西大学のクスノキ(690)が枯れはじめていることに2018年4月に気づいた。2017年7月18日の調査時には写真のように堂々としたクスノキで、樹冠に葉が少なくなっていたが、枯れる状態とは思われなかった。

当会からお尋ねしたところ、教員からの指摘もあり、大学当局として樹木医の診断を依頼するなど対応しているとのことであった。診断の結果、原因は「ナラタケモドキ菌」とのことである。大学当局は根に負担がかからないよう枯れ葉を落とし、根の養生をするなどの対応を進めている。クスノキの主幹に枯れる兆候が見られるものの、根元から新芽が出始めており、見守っていききたい。

大木690



主幹は枯れたが、根元から出てきたひこばえが、大き、育っている。大木2世として、大事にされている。



④

14. 関西大学 尚文館の水枯れのクスノキ

関西大学は大木を大切にしているが、そんな中でも枯れそうな木が出ている。尚文館東側のクスノキ(682)は1997年の写真でもわかるとおり当初グラウンドの外にあった木である。建物(尚文館)新設で木の根元への水分補給が減ってきたと思われ、2017年には頂部に枯れた枝が多くなり、幹も表皮が枯れはじめている。今後生き続けるには、水分補給が必要と思われる。

大木682

関西大学 クスノキ
水分補給が必要か
左上 1997年 302cm 右上 2007年 336cm
左下 2017年 354cm 右下 2018年



主幹の樹皮が、剥がれ始めており、早晩枯れる可能性が大きい。



③No690、④No682、更に⑨1997年No143は

⑤ 15. 関西大学 以文館の移植されたクスノキ

関西大学以文館の北側で岩崎記念館との間にあるクスノキ(694)は、2007年調査時には移植されたばかりで幹に保護布が巻かれていた。旧以文館が改築されるにあたって建物の前にあった木が移植されたものである。今回移植前の1997年の勇姿がみつかった。現在の移植地は建物の間で狭いことから往時ほどではないものの、順調に生育している。

大木694



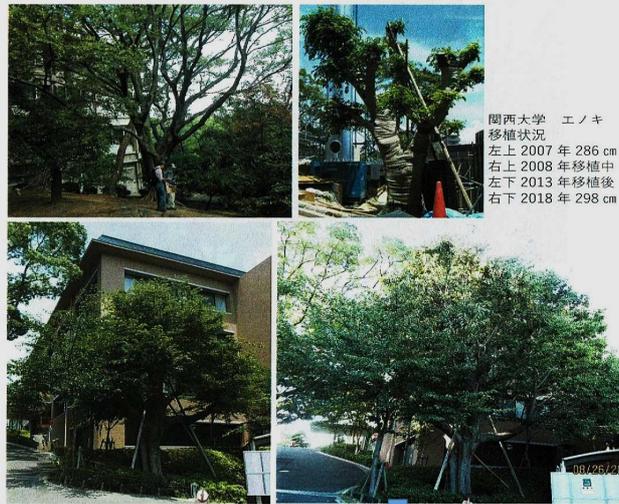
関西大学 クスノキ
移植状況
左上 1997年 465cm (3本立単純計)
左下 2007年 304cm (4本立断面積法)
右 2017年 303cm (4本立断面積法)

⑥ 16. 関西大学 校友・父母会館の移植されたエノキ

関西大学では大木のあったところに校舎が新設されるなど、移植される木が何本かあるが、移植前後の経緯が観察できた木として、校友・父母会館の建設予定地にあったエノキ(1672)がある。

2007年調査の時、樹高15mの木が南側に移植され、樹高5mほどに切られていたが、よく根付いたようで移植後10年の現在も元気な姿を見せている。

大木1672



関西大学 エノキ
移植状況
左上 2007年 286cm
右上 2008年移植中
左下 2013年移植後
右下 2018年 298cm

上記⑤No694、⑥No1672の2本、前頁③No690クスノキの3本は、関西大学が大木を大事に管理している、象徴木である。

←No694クスノキ(現在)

2007年調査時に移植したばかりで、包帯が巻かれていたが、今では枝葉を広げ葉の緑が鮮やかである。

No1672エノキ(現在)→

2007年調査のすぐ後、2008年に校友・父母会館建設のため、移植された木である。こちらも元気に枝葉を伸ばしている。

但し、校友・父母会館建設時(2008年)に、2007年大木のクスノキ2本、クロマツ2本、プラタナス1本の5本が、伐採さ



⑦ 17. 関西大学 総合図書館のマツとメタセコイア

関西大学総合図書館南側道路沿いの傾斜地にマツ(クロマツ)(666)とメタセコイア(667)が並んでおり、1997年調査で大木としたことから、吹田市保護樹木となっている。



関西大学 マツ メタセコイア
上 2018年 265cm 236cm
中 2007年 245cm 224cm
下 1997年 222cm 202cm

左 No666マツ(クロマツ)、右 No667メタセコイア

⑧ しぶとく生きる木

第2学舎前クスノキ
(No656 368cm)



いまでも元気



1997年主幹内部が朽ち初め、サルノコシカケができていた。2007年には新しい根ができて始め、現在はこの新根が利用されている。

